



平成22年2月1日発行

第17号

# ながわまち

# 議会だより

発行 長野県小県郡長和町議会  
編集 議会だより編集委員会



奉納されたおたや祭の山車

## 第17号の内容

### 12月初議会・定例会

議長あいさつ・議員紹介	P2
臨時議会（初議会）	P3
町長提案理由の説明	P5
12月定例会審議結果	P6
一般質問	P7
12月定例会で決まったこと	P18

# 議長あいさつ

小川 純夫

寒中御見舞申し上げます。

この「議会だより」が出る頃は、立春も過ぎ、日暮れも日一日と遅くなり、梅のたよりや寒さも幾分かやわらいで来ているでしょうか。昨年12月に新しい議会が羽田町政と共に、スタートしました。経済状況もなかなか好転せず、失業率も増加の一途。民主党政権に大きな期待感がありますが、先ゆきは誠に不透明です。こうなれば神頼み1月14日、15日は「おたや祭」に豊受様に参拝し、百円玉で、幾つもお願ひして来ました。昨年、国の緊急経済対策として、幾度か交付金が補正増となって来て、良いカンフル剤になればと思います。又、近隣市町村よりもめに来ていることから、これも合併した効果かと感じられます。ひと頃、盛んに公共事業に対して、効果のない施策だと批判が集中したのですが、不況下では目に見える策として、ある程度有効かと思うのです。わが議会も定数削減により、12名の少数精鋭ということになりました。各町村共、これ以上の定数減は考えられないとされています。住民意思の反映には、地域的にも、年齢的に

も絶対必要数があると思います。町長の権限に対し、議会の権能は余り大きいものとは言えないと感ずる処です。

若い人の選挙投票率が50%を切るといって現在、政治はなれからの転換を求めて行く必要があります。我々議会も、もつと開かれた議会として、情報公開をする必要があります。

誰がやっても同じだと思われては、町づくり人づくりなど出来る筈が無い。CATVでの一般質問放映だけでは、議会の様子はわかりにくい。本会議とか常任委員会の放映にも、検討する必要があります。

合併により、地域も人口も増し、少しずつ町民の融合が進み、公共施設も有効に利用されて来ました。二期目の羽田町政には、新庁舎をどうするかという、大案件が目前にぶらさがっています。現長門庁舎を見れば、早晩建て替えが必要。和庁舎では収容力が乏しく、地理的問題も。町民との対話を通じ、着地点を探る必要があります。

毎年百人程度の人口減では、困ります。若者が競って、流入して来るような活気と魅力のある町づくりが必要です。又、結婚問題も悩みの種です。日本中の悩みですから、わが町だけという訳に、いかないと思いますが、皆でがんばって行きたいものです。

今年が飛躍の年になりますように。

# 新議会議員を紹介します

顔と名前を覚えていただけたら、ようプロフィールを紹介し、街で見かけましたら、お気軽に声をお掛けください。

議会役職 生年月日 年齢 星座  
区名 趣味 抱負

【議席順】 数字が議席です。



田村 孝浩

社会文教常任委員会委員  
議会だより編集委員  
昭和36年2月17日  
48才  
みずがめ座  
上の四  
スキー・釣り  
輝く長和町の未来のため、全力を尽くす。



宮下 翼

総務経済常任委員会委員  
議会だより編集委員  
昭和19年2月20日  
65才  
うお座  
窪一  
自然観察・山歩き  
着実な前進

# 一般選挙後の初議会

**議長 小川純夫氏**  
**副議長 伊藤博一氏**  
に決まる

## 初議会羽田町長招集あいさつ

師走となり、何かと  
気ぜわしい時期を向か  
え、寒さも日ごと増し  
てまいりました。本日  
ここに11月8日に執行  
された長和町議会議員  
選挙後の新議員による  
初めての議会である、  
長和町議会第8回臨  
時会を招集いたしまし  
たところ、議員各位に  
はご多忙のところ全員  
の皆様のご出席を賜り、  
開会できますことを厚  
く御礼を申し上げます。  
そして、改めて議員各  
位に当選のお祝いを申  
し上げる次第でありま  
す。

私も、改選でありま  
したが無投票で再選さ  
せて頂きました。



臨時議長を務める伊藤博一議員

私は今後の4年間を、長  
和町が今後20年、30年、元  
気な長和町として発展して  
いくための基礎体力をつけ  
る期間として位置づけ、未  
来のために「耀く長和町の  
生活圏の基礎作り」をテー  
マに諸施策を積極的に展開  
していきたいと考えており  
ますので、議員の皆様にも  
深いご理解を賜り、「ご助言  
ご協力をお願い申し上げま  
す。



あいさつをする小川純夫議員

去る、12月1日に長  
和町議会議員一般選挙  
後の初議会（第8回臨  
時会）が開かれ、議長、  
副議長選挙及び一部事  
務組合議会議員などの  
議会構成が決まりまし  
た。

最初に最年長の伊藤博  
一議員が臨時議長を務

め、議長選挙では小  
川純夫氏が就任いた  
しました。その後  
新議会体制により審  
議に入り副議長には  
伊藤博一氏が決まり  
ました。

今回は、議長、副議  
長の選任にあたり対  
立候補もなく、それ  
ぞれ、全会一致での  
選出となりました。

また、この臨時会  
には羽田町長より人  
事案が提出され、そ  
れぞれを審議しまし  
た。

（議会構成は次の  
とおり、決定しまし  
た。）

### 一部事務組合議会等

依田窪医療福祉事務組合

竹内 英和

長井 武雄

原田 恵召

栗原 暁史

伊藤 博一

小川 純夫

上田市長和町中学校組合

田村 孝浩

宮下 翼

長井 武雄

栗原 暁史

美ヶ原地域行政事務組合

河野 啓治

柳澤 貞司

上田地域広域連合

伊藤 博一

小川 純夫

依田窪福祉会

理事 小川 純夫

評議員 長井 武雄

栗原 暁史

# 長和町議会の組織

議会は、住民から直接選ばれた一定数の議員で構成される合議体です。その意思は、会議における議決の形で表されます。このため、会議を主宰する議長が置かれ、議長に事故等がある場合に備えて副議長が置かれます。

また、議案等の調査、審査をより専門的に

行う必要性から常任委員会を、また、議会の運営を円滑、効率的に行うため議会運営委員会を、さらに、特定の事件について調査、審査するため、特に必要があるときは特別委員会を、それぞれ設置できることになっています。

長和町議会では、「総務経済常任委員会」と「社会文教常任委員会」の2つの常任委員会と「議会運営委員会」を設けて審査します。

常任委員会の委員と所管はつぎのとおりです。

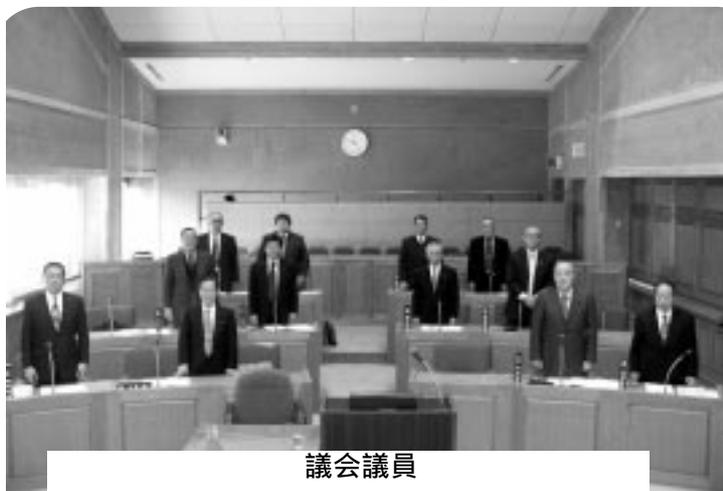
議長	小川 純夫
----	-------

副議長	伊藤 博一
-----	-------

社会文教常任委員会		
委員長	栗原 暁史	
副委員長	長井 武雄	
委員	田村 孝浩	
	古川 直孝	
	原田 恵召	
	小川 純夫	
所管		
町民課、保健福祉課、教育課及び生涯学習課の所管に関する事項の調査及び議案、請願陳情等の審査		

総務経済常任委員会		
委員長	滝沢 勇夫	
副委員長	竹内 英和	
委員	宮下 翼	
	河野 啓治	
	柳澤 貞司	
	伊藤 博一	
所管		
総務課、議会事務局、会計課、企画財政課、産業振興課及び建設課の所管に関する事項の調査及び議案、請願陳情等の審査		

議会運営委員会		
委員長	原田 恵召	
副委員長	河野 啓治	
委員	柳澤 貞司	
	栗原 暁史	
	伊藤 博一	
所掌		
議会の運営、議会の会議規則、委員会条例、議長の諮問に関する事項等		



議会議員

## 人事案

12月臨時会で決まったこと

監査委員の選任につき同意を求めることについて

名倉 俊城 氏（識見者）  
柳澤 貞司議員（議員選出）

# 平成21年12月定例会開会される



長和町議会12月定例会が12月8日（火）から21日（月）までの14日間の会期で開かれ、報告案、条例案、補正予算案、人事案などについて審議が行われました。

## 町長提案理由の説明

長和町議会は、12月1日に開催された一般選挙後の初議会において全会一致で小川議長、伊藤副議長が選出され新たな体制でスタートいたしました。

長和町の発展のため、議会と行政がそれぞれの役割を担い、住民・議会・行政がより良い関係を構築しながら、「人が元氣、町も元氣」を合言葉に、スクラムを組んで諸課題に取り組んで参りたいと考えますのでよろしくご指導ご協力をお願いいたします。

私の新生長和町の町長一期目は、人と人との繋がりが、長門地区と和田地区の融和・一体感の醸成を図ることを中心に据え、行政運営をしてまいりました。

そのことを踏まえ継続しながら、私は2期目行政運営のテーマを「輝く長和町の生活圏の基礎づくり」としました。社会経済情勢が先行き不透明な中、町民の皆様が安心して生活して頂けるように住環境を整備することを行政の柱にしていることを「生活圏の基礎づく

くり」と表現しました。そして長和町が長和町として30年、50年と存続していく為の「基礎体力をつける期間」と位置づけ諸事業を実施してまいりたいと考えています。

具体的なNext Vision公約について、紙面の都合上その一部を述べさせていただきます。

まず人口問題であります。長和町は現状毎年100人づつ人口が減少しております。人口の減少は深刻でありあらゆるところに影響を及ぼします。喫緊の課題である人口増の具体的な対策として、特に住宅対策と子育て支援に力を入れたいと考えています。

住宅対策としては、町外からの人口の流入を図るため、定住マンションを計画的に建設していきます。家賃を低価格で設定して若者が住みやすい住環境を提供いたします。

子育て支援では、子供を育てるなら「長和町で」と

アピールできる施策の充実と保護者負担の軽減を図るため、生まれる前から自立するまで支援策を充実させ、子育て支援日本一の町を目指します。

教育問題では、この間検討を重ね、まとめていただきました「長和町教育大綱」が策定されました。この教育大綱は長和町の教育について、普遍的な理念と中長期的な方向を示し、具体的な方策を定めたものであります。長和町の教育はこの「教育大綱」の基に進められますが、子どもは町の宝であるとの認識のもと、子供たちが「生きるちから」を身につけるための環境整備に努めてまいります。

また、保育料の軽減、高校通学費補助の見直しなどの諸施策を実施します。

生活環境問題では、生ゴミの減量はそれぞれの市町村で対応するのが広域連合の方針でありますので、ゴミの減量化を推進するため長門牧場に生ゴミ堆肥化施設を建設いたします。また、老朽化が著しい和田簡易水道の改修を来年度から4年間で実施致します。

雇用・商工問題としては緊急経済対策として国は大型補正予算を組むようですので大いに期待をし、雇用や中小企業への支援策を取り入れ実施してまいります。また、地域いきいき券の今年の利用は1億4千万円を超えています。地域で確実に使われる「いきいき券」の利用促進に努めてまいります。

庁舎問題については、合併特例債の活用期限は合併後10年間でありますので、行政としての方針をキチンと出して、出来るだけ早い時期に町民の皆さんと話し、方向を出したいと考えています。

政権交代により、鳩山内閣が誕生しました。劇的に行政が変わろうとしていますが、しかし、どう変わるうとも、私は町民皆さんの負託に応えるために、町民皆さんの目線の上に立つた行政を誠心誠意推進してまいりる所存でありますので、今後の町政運営にしまして格段のご理解とご協力をお願いし、町長就任の所信といたします。

（町長提案理由説明より抜粋）

## 12月定例会で審議された議案などの審議結果

### 報告案

- ・例月出納検査結果報告
- ・株式会社 長和町振興公社第11期決算について
- ・株式会社 長和町振興公社第12期事業計画について

### 条例案

- ・長和町営住宅条例の一部を改正する条例の制定について 全員賛成・原案可決
- ・長和町営住宅条例の制定について 賛成多数・原案可決
- ・長和町堆肥貯蔵施設設置条例の制定について 全員賛成・原案可決

### 補正予算案

- ・平成21年度長和町一般会計補正予算（第6号） 全員賛成・原案可決
- ・平成21年度長和町国民健康保険特別会計補正予算（第2号） 全員賛成・原案可決
- ・平成21年度長和町歯科診療所特別会計補正予算（第1号） 全員賛成・原案可決
- ・平成21年度長和町介護保険特別会計補正予算（第2号） 全員賛成・原案可決
- ・平成21年度長和町簡易配水施設特別会計補正予算（第2号） 全員賛成・原案可決

### 人事案

- ・副町長の選任につき同意を求めることについて 全員賛成・同意
- ・教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて 賛成多数・同意
- ・選挙管理委員及び補充員の選挙について 全員賛成・当選

### 陳情

- ・電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長等を求める陳情 全員賛成・採択
- ・非核三原則の早期法制化を求める陳情 全員賛成・採択
- ・核兵器の廃絶と恒久平和を求める陳情 全員賛成・採択
- ・所得税法第56条の廃止を求める陳情 全員賛成・採択
- ・市町村国保の改善を求める陳情 全員賛成・採択
- ・後期高齢者医療制度の廃止を求める陳情 賛成多数・採択
- ・中仙道長久保宿町並み景観保存整備に関する陳情 全員賛成・採択

### 意見書

- ・電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長等を求める意見書 全員賛成・原案可決
- ・非核三原則の早期法制化を求める意見書 全員賛成・原案可決
- ・核兵器の廃絶と恒久平和を求める意見書 全員賛成・原案可決
- ・所得税法第56条の廃止を求める意見書 全員賛成・原案可決
- ・市町村国保の改善を求める意見書 全員賛成・原案可決
- ・後期高齢者医療制度の廃止を求める意見書 全員賛成・原案可決



一般質問

10人の議員が  
町政を問う

12月15日（火）、16日（水）に一般質問が行われ、10人の議員が質問を行いました。

質問事項は下の表のとおりですが、ここでは、その一部をお知らせします。

発言順	氏名	質問項目
1	滝沢 勇夫	(1)国の財政見直しによる町への影響について (2)緊急雇用対策支援事業について (3)地域商店の減少による生活用品購入の仕組づくりについて
2	河野 啓治	(1)保育料の軽減について (2)町内交通システムの構築について (3)選挙の投・開票について
3	長井 武雄	(1)町営住宅建設計画について (2)学校教育について
4	古川 直孝	(1)公文書及び古文書の管理について (2)避難拠点の安全性について (3)選挙入場券について
5	栗原 暁史	(1)長和町の教育について (2)高校通学費補助について
6	伊藤 博一	(1)行政緊急雇用に関する今後の対応について (2)温暖化環境整備等の街路灯のLED化について
7	宮下 翼	(1)長和町の人口減少状況と今後の影響について (2)人口問題に対する町の対応について
8	竹内 英和	(1)長久保宿景観整備について (2)高齢者の生活支援について (3)緊急雇用対策について
9	田村 孝浩	(1)中学校統合問題について
10	原田 恵召	(1)町長のマニフェストは何か (2)まちづくり基本条例をつくる考えはないか (3)庁舎問題をどう進めるのか (4)新築住宅に下水道接続及び加入負担金の補助を



滝沢 勇夫 議員

**問** 国の財政見直しによる新年度の予算編成や政策実現に向けた事業の推進、公約の実現などが交付税に依存する町にとって及ぼす影響は。

**答** 羽田町長  
国の動向を見ながら、予算編成を変えていくことも今後の課題である。町は情報を的確に、早く得るための努力をしている。

**問** 交付税とともに、多くの事業予算の削減、見直しの裁定がされているが、地方への財源移譲や補助事業は、今後どのようなものか。

**答** 羽田町長  
今までの補助金については国に對

してお願いしている。

**問** 和田地区の水道改良補助事業の見通しは。

**答** 羽田町長  
水道の布設替えの事業は今後4年間で行う。当然、国の補助を見込んでいるのでお願いしていきたい。

**問** 町の基幹産業である農業政策で個別所得補償制度による農業者への影響は。また、限定された作物は米のみがモデルとして実施をされていくのか。

**答** 竹内産業振興課長  
詳細は、まだ決定をされていない。早く情報を集め、農家に悪影響の出ないような何らかの対応策を考えていきたい。

**答** 羽田町長  
当面は米が主体、その後、麦、大豆と言われている、そばもお願いしている。

**問** 高齢者農業、後継者不足、荒廃していく農地など中山間地農業の衰退も危惧される今後の対応は。また、高齢農業者や小農家への補助などの助成方法は。

**答** 竹内産業振興課長

悪影響の出ないようフォロイ的な制度を考えている。小農家への支援は今のところ考えていない、できれば集落営農へのシフトをしていきたい。農地の貸し借りについての支援制度をつくっていきたい。

**問** 古町支所が現場作業を持つサポート係を兼務しており、安全面においての管理、監督に問題はないのか。また支所長としての業務に支障はないのか。

**答** 西藤総務課長  
事故等が非常に心配されるので心の注意を払って取り組むようお願いをしている。当初6名で発足し、他の補助事業により女性職員1名を雇用した。支所長が外作業に出る時の補助的な業務をしており、支所長の仕事との両立はできている。

**問** 地域住民からの依頼と行政からの作業比率はどのようになっているか。

**答** 西藤総務課長  
基本的には役場からの依頼による作業がほとんどであります。依頼の

作業が非常に多く、数週間後でなければできないような状況になっている。

**問** 作業内容及び仕事量、行政の事業換算にしたときにどのくらいの事業金額になるのか。

**答** 西藤総務課長  
11月20日現在、154の作業を実施した。金額に換算するということは難しい。

**問** 経済の回復の先が見えない、今後もこの事業の継続が必要と思うが。

**答** 羽田町長  
雇用の問題が、なお厳しくなってくると思っている。この事業を続ける必要があると思っている。財政状況、雇用状況等を勘案して、方向性を出していきたい。

**問** 地域商店の減少により、移動手段のない高齢者の対応策を早急に企画すべきと思つが。

**答** 羽田町長  
ネクストビジョンの中に高齢者のお手伝いをする仕組みづくりを上げている。早い時期に取り組んでいきたい。



河野啓治 議員

**問**

子育て支援をさらに一歩進めるために保育料の軽減措置、同時入園でなくとも第2子60%、第3子以降100%軽減措置を行うことを求めます。子育て支援日本一という方向が、若い人たちを呼び込む上でも、非常に大切な施策になると思います。いかがでしょうか。

**答**

羽田町長

子育て日本一を目指し、同時入園でなくとも第2子60%、第3子無料化を検討していきたい。そういったことをアピールしながら若い皆さんに長和町に住んでいただくような、こんな努力をしていきたいと思えます。ただ、ここですぐに、わかりま

した、同時入園でなくともやりますということはありませんが、町の子育て支援を充実させていくために保育料の引き下げを含めた保育料全体の見直し、保育料の軽減内容について保育所運営委員会などで協議をしながら検討をしていきたい。また特に財政的にどうかということも考えながら、前向きに考えていきたいというふうに思っております。

**問**

超高齢化はすぐそこまで来ております。それに見合った新交通システムの構築が求められています。お年寄りの皆さんが、年々足が弱くなって、バス停留所まで歩くのが大変だ、バスのステップが高くて上がれない、病院の行き帰りの時間が不便だ。買い物もままならないなど、今の巡回バスでは対応しきれない問題があります。これらの声にこたえて、新しい交通システムの構築のために、専門家、町民、交通業者などが入った研究機関を立ち上げて検討を始めることが必要だと思われ

ますが、いかがでしょうか。

**答**

羽田町長

専門家の皆さんの検討会というよりも、身近な皆さんに何かそういった組織をつくって、意見をお聞きしながら、このことに対応していく必要があるか、そういった皆さんの何か研究をする会はつくる必要があるかなと、こんなことを思っております。

**問**

選挙の投票時間1時間早めて、午後7時までとできないですか。選挙の結果の発表がその時間になっていきます。もっと早く選挙結果ができるように、選挙の締め切り時間と開票作業についてお伺いします。早めることについて、何か支障があるのですか。お聞きします。

**答**

西藤総務課長

選挙の投票時間につきましては、特別な事情がある場合については、繰り上げることができるということをごいまして、長和町は全体としてその特別な事情には該当をしないのではないかとこのように判断をしております。

**問**

群馬では36市町村中31が投票時間を早め、やっていないのは5市町村だけです。思い切った、長和町も前に進めるといったことが必要だと思えます。投票時間を早めれば、経費の削減にもなりますし、それから、開票立会人の負担の軽減にもなるわけですし、それから町民の皆さんにも早く投票結果がわかるというメリットが多々あると思っております。

**答**

西藤総務課長

前橋市は期日前投票が浸透し、午後7時以降の投票者数は投票日全体の5%にすぎないと早めています。そういう点で、お聞きしますが、1時間短縮した場合の7時から8時までの投票者数というか、投票率はどのくらいになりますか。

長和町の今年行われた2つの選挙です。1つは衆議院選挙でございまして、これは179人、率にして30%でございます。町議会議員選挙については、35人、0.7%でございます。



**長井武雄 議員**

**問** 若者夫婦マンション、定住促進住宅、青原定住促進住宅において、今までの条件に関係なく入居できるが入居者に、入居条件の変更等の確認を取っているのか。

**答** 羽田町長  
入居基準、退居基準を撤廃するということは、現在入居している方、退居しなければならぬ方向として、悪いことではなく、確認を取る必要はないと考えている。  
今後、入居者全員に変更等については周知をする。

**問** 6年かけて4棟60戸の町営住宅の建設をする計画であるが、町内からの入居者が半分以上を占めることが想定される。町全域にかかわる経済、地域の活性化にどのような計画があって、建設はどのような役割があり、どのような効果を期待しているのか。

**答** 羽田町長  
住宅建設は、町全体で考えた方がより現実的だと思う。1カ所に全部まとめることは、非現実的だと思う。当然、地域バランス等も考えなければならぬ。ただ、入居を希望する方がどこにニーズがあるかをよく考えなければならぬ。

**答** 羽田町長  
地域活性化のビジョンは、平成19年の3月に長期総合計画を策定し、現在進行しているが、前期基本計画の中で5つの将来像をつたっている。これらのビジョンのすべてによって、町全域のかかわる経済、地域の活性化を図っていくと考えている。

**問** 空洞化が進行しないために、転入と町内転居者の扱いをどのように考えているのかお聞きしたい。

**答** 羽田町長  
行政として核家族化を進めているという意識は全くありませんし、それ以上に人口をふやしていかなければならないという思いである。御理解をいただきたい。

**問** 住宅建設計画では鉄筋コンクリート3階建て3LDK15戸のマンションを平成27年までに4棟建設するという予定になっております。鉄筋コンクリートづくりの建物は、若者が望んでいるからという理由であるがどこに根拠があるのか。

**答** 羽田町長  
居住している皆さんの日常生活の中で、いろいろなお話を聞いております。マンションを造るとは決めてはいない。マンション形式がいいのか、今後いろんな方の意見を聞きながら、また入居希望、入居状況等を考えながら進めていきたい。

**問** 和田中学校の存続を否定的に考えるのではなく、長和町の教育方法の1つとして生かしていく方法はとれないのか。

**答** 中村教育長  
教育委員会では、和田中学校の存続を否定的に考えているということは一切ありません。当面は現状維持という、和田中学校のあり方検討委員会の報告があり、この答申を受けて、教育委員会も尊重をし、事業を進めている。和田中学校では、学校支援本部を設置し、地域の皆さん

**問** 和部中学校への通学に関する規則を教育委員会が破った、判断ミスが4年前にあり、現在でも尾を引いている。今後の対応策を教育委員会はどのように考えていくのか。また、その責任はどのようになっているのか。

**答** 羽田町長  
確かに、中学校問題でいろいろな議論はぶつかり合う場合がある、しかし、そのことからPTA活動がおかしくなっていることはないと思う。役員の方から聞いている。合併協議の中で通学区を決めてきたと思います。規則が決まっているからといって絶対それを破ってはいけないということではありませんが、当時の教育委員会の判断は、私は判断ミスではないと思っています。



古川直孝 議員

**問** デマンド交通システムを取り入れる考えはないか。

**答** 羽田町長

理想の交通手段と思われるが、導入には法的、交通網の構築にさまざまな課題がある。町の交通手段は、まず、子供たちの高校通学を考えると上田方面への路線バスの維持を第一とし、その上でいかに経済的に利用しやすい交通手段を確保していくかを検討したい。

**問** 巡回バス、路線バスは住民のニーズに合わせて、ダイヤの変更をお願いしたいが。

**答** 羽田町長

公共交通の必要性は、まずは子供たちの通学、通園、特に交通弱者の皆さんの病院の行き帰り、長門、和

田の温泉に行く接続、免許証ない方の買い物、また、JRバスとの関連等考慮し、この問題については、さらに考えていきたい。

**問** 合併後、古文書の管理、保管状況はどうなっているのか。また、公文書の紛失や地震、火災などの災害に対する備えは。

**答** 西藤総務課長

合併以降の文書は、担当課において簿冊ごとに保管をしている。特に重要な文書は耐火書庫で保存をしている。明治以前の文書の関係については教育委員会でお願している。保管場所は一切火気類は置いて無いが、十分であるという状態ではない。

**問** 古文書の内容と保全されている古文書の管理、閲覧についての対応状況は。

**答** 中村教育長

文書の内容は、江戸時代より、長久保宿、和田宿、町内の旧家に関する文書が多数ある。上小地域の歴史をまとめた上田小歴史は昭和の27年から地元の郷土史の研究者によって調査が行われ、目録が作成されている。

現在、和田地区の下水道処理施設のクリーンハート和田で文化財の保存、展示施設の改修を進めている。管理は、資料の展示室、収蔵庫を配置していきたい。

**問** 古文書の閲覧は町内から寄贈、寄託された古文書は目録等を作成しながら整理を進めている。

**答** 古文書を安心して出せる体制がとれるのか、また他人との区別をして保管などがされるのか。

**問** 古文書を安心して出せる体制がとれるのか、また他人との区別をして保管などがされるのか。

**答** 中村教育長

それぞれの旧家で所蔵されている近代の文書については寄贈、寄託していただけるのかどうか、アンケートを実施し、やっていきたい。安心して預けていただけると思っている。それぞれの家ごとに目録をつくり、管理をしていきたい。

**問** 公文書管理体制を制定する条例を検討する必要があるかと思うがいかがか。

**答** 西藤総務課長

文書取扱規程に基づき実施をしている。今雇用対策で、この作業に人を割り当てる事業があるので補助を受けながら文書整理をしたい。

また、文書取扱規程は見直し、保管、管理に万全を期したい。

**問** 大門基幹集落センターは、避難施設、災害の時には対策本部となるが倒壊の危険性高い建築物だと思うがどのように考えているのか。また、公共施設の耐震計画は。

**答** 羽田町長

耐震基準を満たしていないため、避難は、近くで基準を満たしている施設、大門屋内ゲートボール場、大門保育園、窪城の多目的集会施設に有事の際はお願いしたい。新耐震基準以前に建築された施設を対象に平成19年度より使用頻度の高い施設から順に耐震診断を計画した。集落の公民館は、17施設あるが古い施設順に年次計画を立てて実施したい。基幹集落センターについては、全面改築を視野に、平成22年度に事業実施の準備を進めていきたい。

**問** 選挙入場券を1人1枚にすることはできないか。

**答** 西藤総務課長

個々を尊重する意味から、個別に八ガキを送ることについては、選挙管理委員会で検討します。



栗原 暁史 議員

**問** 教育長の教育論を各分野で縦横に語っていただくというところがテーマだ。教育長の考える就学前教育とは。4年前の町長の公約にもあり、当選後検討された保育園に専門の教員を配置するとか、授業を教えるといったことではないんですね。

**答** 中村教育長

教育大綱策定委員会乳幼児教育部会でも、就学前教育は議論した。小学校へのスムーズな対応、移行、学習環境、生活環境への変化への対応という部分での就学前教育は必要だ。家庭、保育園、地域が連携しながら進めていく。教育大綱の中でもさまざまな体験や外遊びを通して生きる力を育てていくことの大切さを認識している。就

学前教育は特に学力中心ということではない。

**問** 中学校の統合の問題について。教育委員会の見解は、「あり方検討委員会の答申を尊重し、当面存続」ということだが、また、「あり方検討委員会の答申を尊重して」という言い方をすると、結論について、責任を検討委員会へ押しつけることになる。

教育委員会、あるいは教育長の責任で、答申を尊重して考え、自身の意見を述べるべきではないか。

**答** 中村教育長

和田中学校あり方検討委員会で議論していただいた「当面現状維持」という結果を尊重するべきだということ、中長期的な基本姿勢の議論をした中で、教育大綱を作成した。現在、私は、統合・存続について、どっちという回答は出せない。学校運営など、地域の皆さんに子ども達のいろんな部分にかかわってもらいながら活性化していきたい。長和全体でそういうことをやっていきたい。地域全体、長和全体として考えて結論を出すべきだ。

**問** 地域全体で考えて決めるのは当たり前。議論の軸となるべき教育長の見解が必要だと言っている。「教育委員会が議論のイニシアチブを取ってもらいたい」という、和田のお母さん、お父さん方は多くいる。また、「当面」とは、どういう意味か。

**答** 中村教育長

統合問題については、白紙の状況。そういう中で教育大綱の説明をしながら、理解、協力を得ていきたい。「当面」とは、10年と理解している。

**問** 中学校の野球やサッカーの部活動について。和田地区の子ども達は、野球、サッカーを中学に入ったら続けられない。何とか工夫して、子ども達の願いをかなえてあげられないか。

**答** 中村教育長

合同でやった場合には、スポーツの成果を示すべき中体連の大会に出られないという中で部活動を合同でやるということが、現状、不可能だ。

きたい。また、知恵出し会を保護者の皆さんと教育委員会とでやっていただきたい。

**答** 中村教育長

長野県下の児童、生徒数が減ってくる中で、他でも大きな問題であり、中体連と議論する。私も同席しながら保護者会の皆さんの意見もお聞きし、中体連との交渉をやっていきたい。

**問** 高校通学費の負担感は、子育て世代が転出していく、他からの転入を躊躇する大きな理由だ。経済的な側面から見て、子育て支援の最大の課題だ。高校通学費補助充実の必要性について、町長の認識を。現段階での検討状況の報告を。

**答** 中村教育長

現状、高校進学が100%近い中で、景気が非常に悪く、高校通学費の保護者負担は相当重いと思う。なるべく早い時期に通学補助の見直しを始めた。あわせて、非常に複雑な補助制度を簡素化したい。

**問** 大会参加について、上部団体に対して交渉していただ



伊藤 博一 議員

**問** 世界的な金融危機、経済不況により、特に生産企業の稼働が縮小、倒産、廃業など雇用のリストラなど労働者にとっては厳しい環境のもとで、働きたくも受け入れる場所もなく、深刻な状況が続いているが町としての対応は。

**答** 羽田町長

緊急雇用の対策の期限つきの雇用した事業で美しの郷サポート係が実施している事業は、今までできなかったこと、職員では対応できなかったことができたなど、関係部署及び受益者から高い評価を得ている。ただ、あくまでも緊急雇用対策という景気の悪化による雇用ということであるので、雇用状況、財政状況を見ながら方向性を出したい。

**問** 財政状況や雇用状況の回復の見通しが難しいという中で、これから増員を図るか、それとも今後縮小してでも雇用の維持を図っていくか。

**答** 羽田町長

雇用状況はこの4月、5月になっても安定するということは難しいと思っている。今後、この事業は継続していく必要があると思っている。ただ、どの程度、国が助成を考えているのか状況を見ながらも考えた。

**問** 町の雇用の人員は、多ければ多いなりに、その雇用対策費というものは交付されてくるものか。

**答** 西藤総務課長

雇用関係で臨時の者にお勤めいただいているのは、美しの郷サポート係と産業振興課の商工観光係です。補助事業としてのメニューが取り込めるか検討したい。なるべく国、県の補助を受けて、より多くの人が働いていただけるようにしたい。

**問** 雇用は継続して採用するのか、あるいは新しい方を採用するのか。

**答** 西藤総務課長

1年契約であるので退職となる。美しの郷サポート係として事業を推進していくとなると新たに公募をかけて募集をしていきたい。雇用人数については応募状況によって流動的に考えたい。

**問** 緊急雇用事業は期限つきであり、事業が中止になった場合、町として何か事業を考えているか。

**答** 羽田町長

新たな事業の草案は、長門牧場に建設中の乳菓子等加工施設、入大門地区にダツタンそば加工直売施設が始まりますので新しい雇用が生まれる可能性もあると思っている。

**問** 雇用の受入れ事業として、野菜を年間を通して作れる施設を、建設する考えはないか。

**答** 竹内産業振興課長

農産物直売所の通年営業というものが町は弱い。農協とタイアップをして施設園芸のパイプハウスの補助を検討している。

**問** 設置済みの街路灯の蛍光灯

を発光ダイオード、LED化に交換を図るお考えは。

**答** 羽田町長

設置済みの街路灯は、防犯、交通安全などの面で大きな役割を果たしている。当面は地域要望による新設や著しい老朽設備の改良、設置についてLED、防犯灯を推奨し、平成22年度から試験的に導入を図り、最大10基程度の設置をしていきたい。

**問** 住宅用太陽光発電設置には補助金が最近補助されております。そんな町の設置にLED化照明の促進と太陽光発電の実現に向けての考案は。

**答** 羽田町長

LED化により、電気料金や電球交換といったメンテナンスコストの削減やCO2排出量削減につながるものが大きなメリットとなる。国も温室効果ガス排出量削減に関する中期目標を1990年対比25%削減を目指すとしており、今後国、県、各自自治体においても太陽光発電の推進などが挙げられるように、LED照明などの推進等の温暖化対策が予想されますので、情報を的確にとらえ研究、検討をしたい。



宮下 翼 議員

**問** この10年の町の人口減少状況と今後の予測がどうなっているか伺います。

**答** 羽田町長  
平成21年の人口は7177人ですが、この10年間で人口が765人減少している。平成15年以降は、年々100人程度減少し続けているのが現状です。人口移動の内訳として、自然増減分では出生が死亡を395人下回り、社会増減分では転出が転入を117人上回っている。  
現状のまま推移するとすれば10年後の平成31年には、人口が現在の7177人から1000人程度減少し、6177人となる見込みです。

**問** 人口減少の原因、要因をどう考えるか。転出数の大きさが人口減少に効いていると思われるが、どんな人がなぜ転出するのか。

**答** 羽田町長  
自然的な要因にかかわるものと、社会的な要因に区別することができると考える。若い世代が入ってくれば出生の要因が色濃く、高齢者が入ってくれば死亡の割合が高くなるというように、この因果関係は密接に結びついている。  
町として転出にかかわる具体的なデータは把握していないが、窓口業務での動向は、学生の転出や特養施設への入所による転出、次に結婚して他市町村に世帯を設けて転出する場合等が推測される。

**問** 今後の人口減少は町の経済社会にどのような影響を及ぼすか。

**答** 羽田町長  
税収はもとより、地方交付税の算定を初めとするあらゆる行財政施策に影響を及ぼすものであるとらえている。人口減少は生産及び消費の縮小に直結しており、農政、商工業、福祉、保険及び医療並びに保育及び

教育、さらには生活を営む町の原点でもある集落の維持にもさまざまな影響を与える。

普通交付税に与える影響額としては、1人当たり約20万円程度と算定され、具体的には500人減ると普通交付税で1億円、1000人で2億円の減となるものとされている。よって、平成31年には現在より約1000人減少するとすれば、交付税の額は人口だけの算定で2億円が減ることになる。

**問** 町は人口問題をどのように位置づけ、力を入れたいか。

**答** 羽田町長  
長和ネクストビジョンの最初に掲げる目標であり、人口問題は1丁目1番地の課題としており、全職員はもとより全町民の英知を結集して取り組むべき課題であると判断をしている。

町も全国的な少子化、高齢化というマクロ的な構造形態の流れに逆らうことができなくなることや、若い、議会からの申し入れもあり、長和町少子化対策検討委員会を平成20年1月に立ち上げ、人口問題、特に少子化問題に取り組んできたところで

**問** 長和町出身者、それも都市居住者、団塊の世代をターゲットとしたUターン促進事業の展開が有効と考えるがどうか。

また、この促進イベントとして長和町ホームカミングデーを年に1回実行して、お客さんに来町していただいで、町を見てもらう機会をつくるなどの考えはどうか。

**答** 羽田町長  
別荘所有者の皆さんに、呼びかけるといつのも、一つの方法であると思う。ただ、今こういう景気ですから、少し心配するところであります。

スキー場に来る若い皆さん、長門牧場に来る皆さん、そういった方々に長和町のよさ、長和町に住めば、といったPRも必要かなと思う。

東京長和会への働きかけなどさまざまな機会もあるかと思う。また係をつくって、それに対応していくことも一つの方法だろうと思いつかりと行政の中で検討をさせていただきます。

長和町ホームカミングデーはなかなか面白い企画だと思う。



竹内英和 議員

**問** 町長は前回、「和田宿は整備が進んでいるが、長久保宿はそれなりの対応をしていかなければならない、また当時の雰囲気を感じられる整備をしていく」と答弁をしています。今回、陳情書でお願いした旧丸木屋の整備、高札場建設の件についての見解は。

**答** 中村教育長

町でも、数少ない貴重な宿場の歴史的建造物として、これを後世に残すべきものと考え、来年度の実施計画に建物の調査費と土地購入費を盛り込ませていただきたい。

長久保宿高札場の整備は、地元の皆様さんからの要望があり、長久保宿保存整備検討委員会でも協議をしてまいりましたが、高札場の整備、丸木屋さんの整備活用ともに、来年度の実施計画に盛り込んでおります

が、整備の規模や周辺の景観整備については、長久保宿の保存整備検討委員会や地元の関係者の皆さんとも協議をさせていただきたい。

**問** 一福処濱屋にある陳列ケースの中には空状態である、展示するものがあるのではないか。

**答** 中村教育長

開館当初から常駐の管理人を置かない体制で現在まで進めている。展示をするとなると、盗難等の心配がある。個人から借用品もあるが十分な管理ができないということで、陳列ケースの部分には展示ができなかった。訪れた方々からは館内の説明、宿場の案内等を望む声が多く出ているので今後は常駐の管理人なり説明のボランティアを募っていきながら長久保宿等を訪れる皆さんの御希望に沿っていききたい。

**問** 中山道筋でも最古と言われ、る屈指の建造物である本陣、また、わき本陣、釜鳴屋などの復元、整備、また、保存ができないものか。将来に向けての行政の基本的な方針は。

**答** 中村教育長

本陣石合家、釜鳴屋竹内家が中山

道筋の各宿場の中でも屈指の建造物であり、国の重要文化財、県の県宝指定を念頭に置いた復元整備が望まれ、ほかにも宿場を構成していた有力なお宅が残されている。これらのお宅は生活されていること、町の財政面を考えると、数年で全て保存整備を行うのは、大変難しい状況である。所有者の同意が得られれば国の登録の有形文化財の申請を行い、保護していくことが、現段階では最も有効な手段というふうに思っている。

**問** ネクストビジョンの中で、ボランティアと提携を図り、高齢者サポートシステムを構築するとあるが実現に向けての具体策は。

**答** 羽田町長

高齢者の方に対しての食料品、日用品の宅配をしながら安心して生活をしていただくということである。振興公社が福祉的な役割を果たすということは町民に対しての役割であり、社会福祉協議会でも、ボランティア活動を通じながら、活動をしていくというようなことで、現在、話が進んでいる。

**問** 毎日の生活をする中で、衣食住の食に当たるところで、衣あり、速やかな取り組みが必要だと思えます。今後、増加していくであろう高齢者の生活利便性に取組んでいかないと、安全で安心して暮らすまちづくりは、足元から崩れると思えますがいかがか。

**答** 羽田町長

高齢者の皆さんに対しての福祉的なことは、社会福祉協議会において、いきいきサロンを初めとして相当厚くしている。高齢者の皆さんが安心して生活ができる、そういったことを考えて、この高齢者サポートシステムはなるべく早く調整をして、早く対処していきたい。

**問** 小さな役場への意向とは逆行するが、緊急的な考え方として、経済が回復し、雇用が安定するまで、この制度を維持、持続ができないものか。

**答** 羽田町長

国の動向を見ながら今後、決めていきたい。すばらしい御提案であるが創設するのは非常に難しいと思っている。ただ、雇用状況、財政状況を見て、考えていきたい。



田村 孝浩 議員

**問** 学校統合は、和地域だけの問題ではなく、未来ある子供たちのために、町全体で考え、早期解決を図らなければならない重大な問題だと考えるがいかがか。

**答** 羽田町長

和田中学校のあり方検討委員会では結論として、当面現状維持とするが、中長期的なあり方については、今後も慎重に議論を重ねていくというものであります。  
学校統合については、町全体の観点ととらえている。子供にとってどうすべきか、何が重要なのか。子供の教育を最優先に考えることが大事であり、また保護者の意見、町全体の考え方を総合的に集約しながら、さらには、教育の専門家の意見も交え

ながら結論を出していくことが大事だと思っている。

町の人口も年々減少の一途をたどり、和田中の生徒数の推計では平成27年では、47人になることが推計をされておりますが、人口減少に歯止めをかけながら、教育を考えることはまちづくりそのものを考えることだという観念に立ち考えていきたいと思っている。

**問** 小中学校の通学区域について、平成18年6月に和地区保護者あてに通知されたお知らせがありました。区域外通学の許可をした極めてまれな事案である文面に加え、方向が定まらない限り、通学区域規則通りとするという部分について、保護者の方々に混乱を招いていた経過がありますが、どうお考えか。

**答** 中村教育長

町村の枠を超えて、自分の部活動が続けたいという熱い熱意の中で許可をした経過であり統合問題とは別の観点で許可をした。保護者の方には混乱を招いたということは、否めないわけであります。通学区域を今までの規則どおりお願いしたいというところで、通知を申し上げます。

**問** 町長の「水明の里だより」の教育問題、ビジョンの中に課外教師のさらなる充実とあるが、これは和田中学校のことなのでしょうか。

**答** 羽田町長

課外教師は現在、小学校、中学校に3名をお願いしてをしているが、さらに人員を増やし、学力向上を図りたい。

**問** 町長は「子供たちの意思を尊重し、子供の希望を聞く」ともおっしゃっております。統合問題は別の観点での教育的配慮で言えば、住所を移せば南部中に行ってもいいということなのでしょうが。子供たちは、いろんな部活動に興味があり、その環境を与えてやらなければいけないと考えるがいかがか。

**答** 中村教育長

教育委員会としては、学区外通学というものは認めない。認める場合の特例としては、身体的理由、教育的配慮、家庭に関する理由ということであれば学区外通学は認めるといふことになっている。

**問** 3年ほど前、教育委員会を

通じて和田中学校に野球、サッカーができるように、社会体育活動の依頼をお願いしたところ、バレーができなくなるからということを受け入れていただけませんでした。そんな経過の中で、教育長は「中体連にお願いをする」と言ったがどのようにするのか。

**答** 中村教育長

和田中学校には、野球部、サッカー部がない。ただ、町全体での野球、サッカーの活動を実施している。その子供たちが中学校に行くことによって、出来なくなってしまうので何とか長和町全体で中体連にお願いをしていきたいということである。

**問** 融和とは、中学校の統合が、一番の融和策だと思いが、いかがか。

**答** 羽田町長

学校統合も、融和の1つであるとは考えております。しかしながら、学校教育というものは、単に部活、社会体育だけではないというふうに思っている。必ずしも学校を統合することが町の融和策一つの要因ではありませんが、それがすべてではないと思ってる。



原田 恵召 議員

**問** 12月号の広報に町長の施策について掲載されていたが、具体的な内容は何か項目で挙げていただきたい。

**答** 羽田町長

選挙前に、自分の後援会便りでの4年間の公約というものを掲載をさせていただいた。

a人口問題 s子育て支援 d福祉 f医療  
問題 g教育問題 h生活支援問題 i雇用、商工問題 k観光問題 l農業問題；  
林業問題 A大学との連携 S庁舎問題・  
役場職員の資質向上とやる気を図る・  
町民の皆さんとの対話・地区担当職員  
制度の充実が主な公約である。(具体的  
な内容は省略)

**問** 新築住宅助成金等の生活支援策の充実は何を指しているのか。

**答** 羽田町長

新築住宅助成金は、これからの課題として議論をしてみたい。家を建てていただき、住んでいただくことが必要である。

**問** 赤松のマックイムシ対策をどのようにしていくのか。

**答** 羽田町長

標高の高いところまで被害が広がっている。地域の特産品であるマツタケ等に被害が出てくると、全滅するので、駆除対策には万全を図る。

**問** この町が30年、50年としっかり歩んでいけるように、生活圏の基礎づくりとされているが、具体的に何を指しているのか。

**答** 羽田町長

平成の合併で、町は小さい合併を選んだが、町として生きていかなければならない。そのための、いわゆる基礎体力づくりといつづつにとらえている。

**問** まちづくり基本条例をどうよに考えているか。

**答** 羽田町長

まちづくり基本条例は町民主役による自治を定めた条例である。

町民の皆さんの参画と協働のもと、お互い立場を尊重しながら、まちづくりを進めていく必要があるものといつづつに考えている。

**問** まちづくり基本条例をつくる考えはないか。

**答** 羽田町長

現に、町民の皆さんの町の協働による個性と魅力あふれるまちづくりを公約のもと、推進している、条例を制定して行政施策の展開を図る必要があるのか、いろいろな角度から慎重に検討したい。

**答** 羽田町長

庁舎検討町民懇話会から庁舎建設についての答申がされており、ますが、どうとらえているか。

懇話会で出された意見等を集約した中で、平成21年9月に賛否両論併記をした庁舎検討町民懇話会報告書が提出をされている。その中に、長門庁舎は老朽化が激しく、しかも耐震性能が不足し、また、私自身、分庁方式が、一体感の醸成の妨げになっている部分もあるといつづつに理解をしている。何らかの対応なり対策が必要かなといつづつに考えている。

ふつに考えている。

**問** 懇話会から報告書が提出され、次は町が主体となり次のステップに進む段階に来ているのではないか。

**答** 羽田町長

庁舎問題は合併特例債を活用した方がいいわけで、当然、この1年、2年ぐらいの間でこの問題は解決する必要があると考えている。、さまざまな御意見、検討委員会の答申書をたたき台として町の考え方、私の考え方をつくり上げ、なるべく細かく町民の皆さんと話をして、方向性を出していきたい。

**答** 羽田町長

**問** 新築住宅に下水道接続及び加入負担金の補助をしたらどうか。

下水道加入負担金は、建設事業にかかわる費用の一部を負担していただいているものである。当町の場合、35万円で、近隣市町村と比較しても低いと思っっている。現在住居を持つている方の新規加入の扱いによつては、住民の方々との間に不公平感を増大させることが危惧されます。新規定住を促進することを考えた場合、土地の取得、住宅建設をトータルに支援する方が有効ではないかと考えている。

# 12月定例会で決まったこと

## 条例案

長和町営住宅条例の一部改正

長和町営住宅条例の制定  
 条例改正・制定により自由  
 由に家賃設定ができるため、  
 近隣市町村よりも低価格に  
 家賃を設定するものです。

長和町堆肥貯蔵施設の設置  
 条例の制定

資源循環型農業を町全体  
 で推進することを目的  
 としています。

## 予算案

平成21年度長和町一般会  
 計補正予算(第6号)

歳入の主は、普通交付税  
 の額が決定されたことに伴  
 う増額、また、子育て心援  
 特別手当制度の廃止に伴つ  
 減額、防炎情報通信整備事  
 業交付金によって、全国瞬  
 時警報システム整備事業を  
 全額国費にて全国一斉整備

することに、当町の防  
 災無線モシシステムの改修を  
 行う経費を計上させていた  
 だきました。

滝ノ沢の巨石崩落による  
 防止工事、長久保青原線道  
 路改良事業、情報基盤整備  
 事業及びクリーンハート和田  
 改修事業で合併特例債の  
 補正です。

本年度の普通交付税調整  
 後の額は25億4058万3  
 千円で、当初予算額から2  
 億1058万3千円の増額  
 です。

歳出は、ヒブワクチン予  
 防接種及び新型コロナウイルス  
 インザのワクチン接種に伴い  
 その費用の一部を町単独で  
 補助をするもので、ヒブワ  
 クチン接種は、対象者(生  
 後3ヶ月〜11ヶ月)1回当  
 たり5千円の補助、新型イ  
 ンフルエンザワクチン接種  
 は、対象者を「1歳から小  
 学校3年生まで」、「妊婦」、  
 「1歳未満の保護者一人」は  
 一回限り、3600円を補助  
 するものです。

合計で3853万5千円の  
 増額補正で、補正後の総額  
 は、56億4056万7千円  
 となった。

平成21年度長和町国民健  
 康保会計補正予算(第2  
 号)

保険給付費、出産育児一  
 時金、葬祭費などに係る経  
 費の増額です。

平成21年度長和町国民健康  
 保険科診療所会計補正予算  
 (第1号)

診療報酬の増額の補正です。

平成21年度長和町介護保険  
 会計補正予算(第2号)

認定者の増加及びサービス  
 利用の増に伴う居宅介護サ  
 ービス給付費の増及び居宅介  
 サービス計画給付費、介護予  
 防サービス給付費、高額介護  
 サービス負担金、特定入所者  
 介護サービスの増などの支出  
 の増額です。

平成21年度長和町簡排施設  
 会計補正予算(第2号)  
 浄化槽整備事業の増額です。



文化財の保存、展示施設の改修が進むクリーンハート和田と町営住宅

## 人事案

副町長の選任につき同意を  
 求めること

新たに、西藤栄二氏(58  
 歳・前、長和町総務課長・長  
 久保)を副町長に選任するこ  
 とに同意したものです。

教育委員会の委員の任命  
 につき同意を求めること

再任、中村二郎氏(60歳・  
 和田上町)を教育委員会の委  
 員に任命することに同意した  
 ものです。

後日開かれた教育委員会  
 において、同氏が教育長に互  
 選されました。

選挙管理委員及び補充員  
 の選挙について

選挙管理委員  
 徳竹久男氏・鳴海 潔氏  
 山浦 泉氏・名取久夫氏

後日開かれた選挙管理委  
 員会において、鳴海 潔氏が  
 選挙管理委員長、職務代理者  
 に名取久夫氏が互選されまし  
 た。

選挙管理補充員

清水敏雄氏・黒沢 毅氏  
 古川雄司氏・宮下清志氏

齋藤あやこさんの表敬訪問・藤森由香さんの壮行会

抱負を語る齋藤さん



齋藤さんを中心に全員でガッツポーズ

平成22年1月21日(木)長門庁舎に、バンクーバー冬季五輪パラリンピック(種目…車いすカーリング)に出場の齋藤あやこ(古町)さんが出場報告に町を訪問。  
羽田町長始め職員、小川議長が出迎え、励ましの言葉をかけました。  
齋藤さんからは「全力を尽くしメダルに近づくよう一杯頑張つて来ます」と力強い言葉での挨拶がありました。

また、バンクーバー冬季五輪オリピック(種目…スノーボードクロス)に出場の藤森由香(大門)の壮行会は1月27日(水)長門町民センターで行われ、小中学生ら町民の皆さん約350人が集まり激励の言葉や花束・千羽鶴を贈った。  
議会を代表し、小川議長が激励の言葉と激励金の贈呈を行いました。  
藤森さんからは「絶対あきらめない気持ちで自分の滑りを出したい応援をお願いします。」と、挨拶がありました。



激励の言葉を述べる小川議長



激励を受ける藤森さん

上田地域市町村議会議員研修会



研修をする議会議員

平成22年1月20日(水)上田市丸子文化会館において、上田地域市町村議会議員研修会が開催されました。この研修会は上田市議会が主催で以前より行っていたもので、上田市、東御市、坂城町、小泉郡の市町村議会議員が集まり研修を行いました。  
研修会では、信州大学経済学部教授の眞壁昭夫さんから「2010年の日本経済」と題した講演が行われました。これから日本の国が良い国になるか、沈んで行く国になるのか重要な時期であるなど大変参考になる講演であり、今後の町議会活動の方向性を見出す一助となった研修会でした。

下諏訪町議会議員との交流会

平成22年1月14日(木)、下諏訪町議会と長和町議会の交流会が長和町で行われました。  
この交流会は、総務常任委員会が年一度行っていたのですが、本年度は議員全員のの交流会となりました。  
交流会を通じての意見交換の中で、両町の委員会活動を考えるに当たり、有意義な交流会となりました。

町村議会正副常任委員長会議員研修会

平成22年1月26日(火)長野市長野県自治会館において正副委員長研修会が開催されました。  
研修は、事例発表及び全国議会議長会職員、岡本光雄氏による講義があり、事例発表として原田議会運営委員長より当町の議会運営、常任・特別委員会に関する事例発表を行いました。  
講師の講評では「合併の町であり過去はないので、前進あるのみ。町の基本条例制定に向け頑張ってください。」との講評をいただきました。  
講義は、委員会制度と運営の実務と題し、議会を巡る最近の動向や地方自治法の改正点、自治法の解釈、通年議会等の講義でした。



天の岩戸開きの場



とんちで將軍足利義満様を感服させた場

その起源は江戸時代末の、文政十一年の文書が、現在のところ最も古い記録として残されていますが、お祭はこれ以前よりかなり古くから行われてきたと考えられます。豊受社では伊勢神宮にならって、20年ごとに遷座祭が行われ、例祭は毎年1月14日の夕方から15日の昼頃まで行われます。お客のある家庭は、この日を年始にし、その歳の出発とするのを慣わしとしています。旧家所蔵の天保六年の日誌に記載されています。「御田(旅)屋賑わし、かざり物数ヶ所美事也」との一文が、現在判っている最も古い山車の記録です。現在は区単位の5場所の保存会によって奉納されています。

おたや祭と山車の由来

長和町の古町(旧長窪古町)に所在する豊受社の例祭は、通称おたや祭として知られています。



赤穂浪士 吉良邸に討入りの場



坂本龍馬 江戸へ出立の場



白鵬、前人未到の場

編集後記

議会報告の一手段であります議会だよりも、編集委員会が中心となり、町民皆さまに議会の出来事や議会で決定した事項など、年4回の発行で、議会活動のほんの一部分ではありますが、少しでも町政に関心を寄せていただき、ご意見を賜れる機会にと発行をしております。

「ご家庭で、「議会だより」を手にとつてご覧いただけるような広報誌となるようがんばります。

読みやすく、分かりやすい議会だよりを発行したいと思っておりますので、更にご愛読いただきますようお願いいたします。

議会と行政がタッグを組んで、町民の期待に添える町づくりに取り組んでまいります。

町議会も、バンクーバーオリンピックに出場する「藤森由香さん」・パラリンピックに出場する「齋藤あや子」さんに応援・協力するとともに、ご健闘をお祈りいたします。

(伊藤 記)

編集委員会

委員長	伊藤 博一
委員	田村 孝浩
	宮下 翼
	竹内 英和
	原田 恵

議会だよりに関するご意見ご感想をお寄せください。